

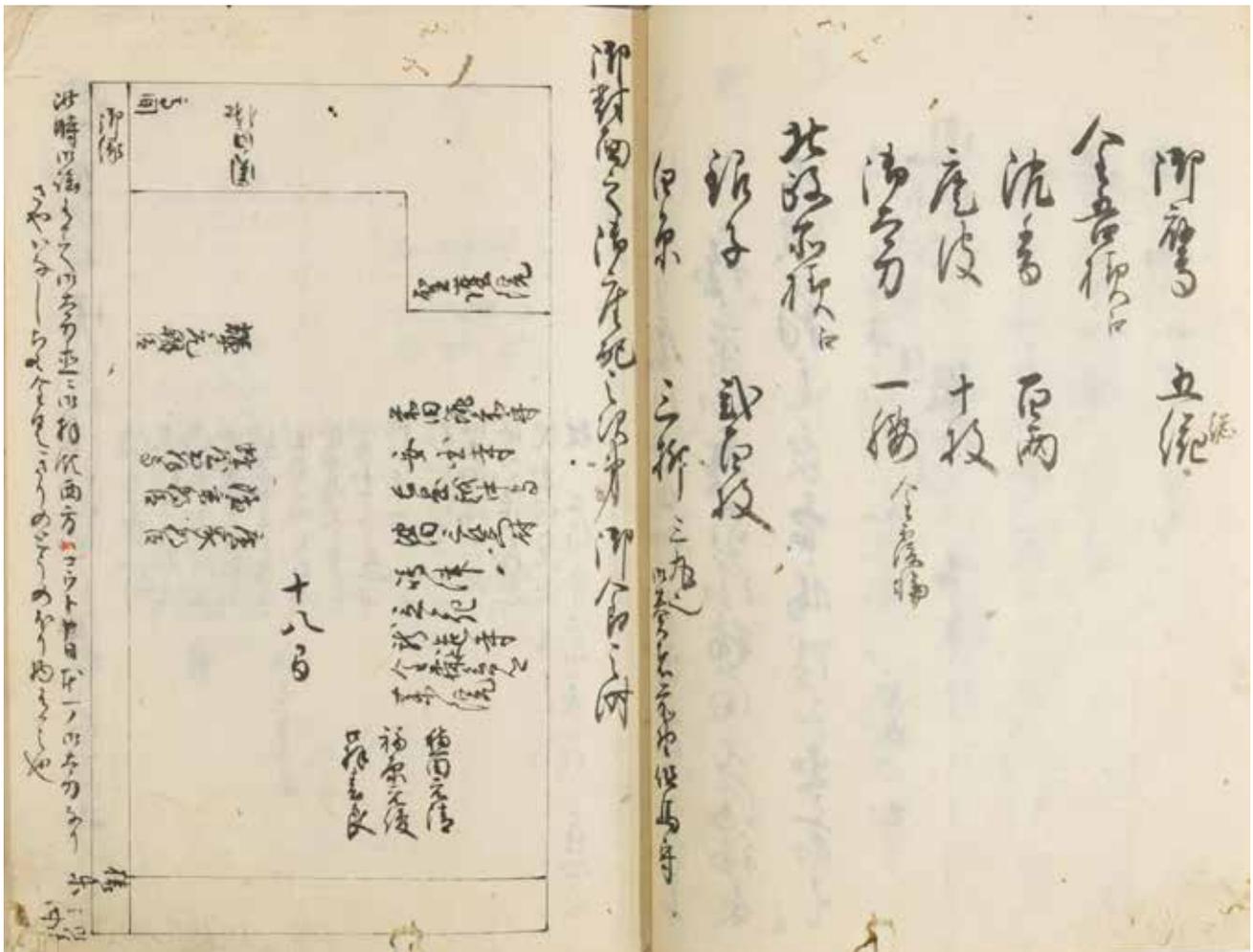
Let's Know Hiroshima Castle.



しろや！ 広島城

No.79

#毛利輝元 #はじめての京旅行 #「天正記」
#天正十六戊子 #京都楽しい



「天正記」山口県文書館蔵

毛利輝元が広島城の築城を開始したのは天正17年（1589）のことですが、築城のきっかけとなったとされる出来事が、その前年に果たされた上洛でした。この時輝元は、聚楽第や大坂城を見物し、政治・経済の中心として機能する城と城下町が一体となった風景に大きな衝撃を受け、それが広島築城のヒントになったとされています。実はこの上洛、輝元にとって生まれてはじめての畿内旅行でもあり、聚楽第以外にも数々の名所旧跡を訪れていることが

わかっています。今回は、輝元の上洛時の様子を記した「天正記（輝元公上洛日記）」（山口県文書館蔵、以下「天正記」）から、輝元の畿内旅行の様子を少しのぞいてみましょう。

「天正記」について

「天正記」とは、毛利氏の家臣である平佐就言が書いたもので、輝元が7月7日に安芸国吉田郡山城を出発し、京都・大坂に約1か月半滞在し、9月



【地図1】輝元上洛ルート

19日に帰城するまでの様子を書き留めたものです。内容は、日々の出来事はもちろんのこと、出会った人物や贈答品の内容、茶会時の献立や秀吉に謁見した際の配席図などが詳細に書かれており、当時の畿内の様子や輝元の交友関係がうかがえる、たいへん興味深い資料です。

輝元、念願の上洛

7月7日朝、吉田郡山城を出発した輝元は瀬戸内海を渡り大坂を経て、京まで向かいます。京に到着したのは出発して15日後の22日の夕方のことでした。なお、今回の上洛は秀吉に臣従の礼を取ることが主目的で、輝元だけでなく、叔父の小早川隆景、いとこの吉川広家ほか多くの家臣が同行し、「二百余艘」の船に「三千」もの家臣が供奉していたともいわれています。

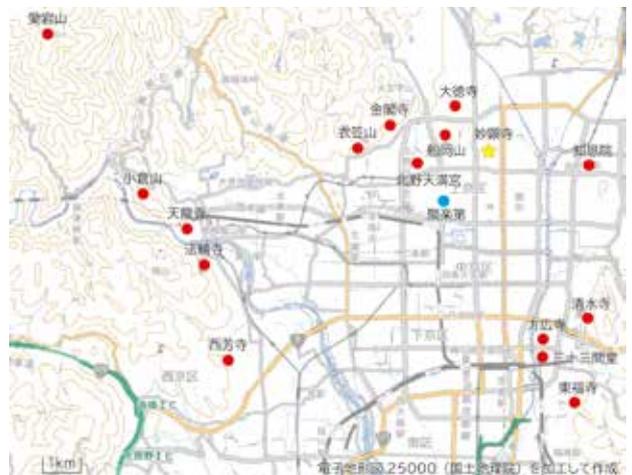
京に到着した輝元は、妙顕寺（現京都市上京区）を宿所とし、ここを中心に活動しています。妙顕寺は、元亨元年（1321）、後醍醐天皇から寺領を賜り建立された日蓮宗寺院で、数度の移転、寺号の変遷を経て、天正12年（1584）に秀吉の命によりこの地に移ったとされています。

さて、24日に聚楽第に出仕して秀吉への謁見を果たした輝元は、その翌日、御所に参内して天皇に拝謁し、従四位下・参議に叙任、豊臣姓を賜りました。この天皇への拝謁そして参議に任じられたことがよっぽど嬉しかったのか、戌の刻（午後8時頃）に一度妙顕寺に戻った後、亥の刻（午後10時頃）に秀吉の弟・豊臣秀長の屋敷に向かいます。ところ

が、常識的に考えてもそんな夜遅い時間に訪問したところで秀長に会えるはずもありません。当然、秀長邸の門が閉まっていたため、家臣に伝言を残して妙顕寺へ引き返しました（輝元残念！）。

輝元の畿内観光

輝元は滞在期間中、秀吉への謁見や御所参内のほか、諸大名への挨拶廻りや茶の湯の席に呼ばれたりするなど、多くの人が集まる京ならではの人的交流をはかっていたようですが、その合間をぬって様々な観光地を訪れています。例えば8月9日の寅の刻（午前4時頃）、宿所を発ち、秀吉の家臣である黒田孝高の案内のもと、愛宕山に登り愛宕権現や宿坊の福寿院などを参詣しています。愛宕山は比叡山と並び古くより信仰対象とされてきた地で、山頂には全国に約900社ある愛宕神社の総本社があり、火伏せ（防火）の神様として全国各地で信仰を集めている



【地図2】輝元が京で訪れた観光地

名所です。そして未の刻（午後2時頃）に下山し衣笠山や嵐山、法輪寺を経て嵯峨野の天龍寺など、嵐山周辺を観光しました。天龍寺といえば足利将軍家と後醍醐天皇ゆかりの禅寺で京都五山の第一位の寺格をもつ寺院です。度重なる火災に見舞われ、天正13年（1585）に秀吉から寄進を受けるまで復興できなかつたとされ、輝元が見物したのは復興半ばの姿だったと思われます。ちなみに、天龍寺といえば雲龍図が有名ですが、この絵が製作されたのは明治32年（1899）なので（現在公開されている雲龍図は平成9年（1997）作）、輝元が訪れた頃にはまだありません。天龍寺の見物を終えた輝元は仁和寺「親王様」の招待を受け、食事や能を見学し、宿所である妙顕寺に戻ってきたのは子の刻（午前0時頃）で、早朝から夜遅くまでの観光でよっぽど疲れたのか、翌日は終日宿所で過ごしたようです。

そのほか、8月3日に清水寺や三十三間堂、6日に東福寺、21日には賀茂の上下社や金閣寺、29日から9月1日には琵琶湖周辺の名所旧跡めぐり、3日に宇治の平等院、6日には奈良の東大寺大仏殿や興福寺、春日大社に参詣しています。

このように、輝元らは1か月半の間に様々な観光地を訪れていたことがわかりました。現代の私たちも旅行をするとはじめて見る風景などに刺激を受けて帰ると思いますが、輝元にとっても同様で、それが人生はじめての畿内旅行で、様々な人と交流し観光地を訪れ見聞を広められたことは、その後の輝元の考えに大きな影響を与えたことでしょう。

（高土尚子）

【参考文献】

二木謙一『秀吉の接待 毛利輝元上洛日記を読み解く』
2023年7月1日発行、吉川弘文館

コラム — これからの広島城 — 広島城天守の復元等に関する検討会議

広島市では、広島城の天守の木造復元に向けて、天守台及びその周辺の石垣の調査や、復元の根拠となる資料の収集を進めてきましたが、令和5年度からは木造復元に関する技術検討を行っています。

史跡の遺構等への影響や、現在の天守の解体、天守群の復元等に関する技術的な課題等について基礎的な検討を行うに当たり、令和5年11月、「第1回 広島城天守の復元等に関する検討会議」を開催しました。

第1回の会議では、広島城天守に関する基本的な情報や、復元等に関する検討内容について情報共有を行い、「現天守が戦後に果たした役割を十分に検証して、後世に伝えなくてはならない。」「実測図面があれば簡単に復元できるわけではなく、しっかり検討してもらいたい。」などの意見がありました。

今後は、文化財の保存に係る検討として課題の整理や整備方針について検討し、現在の天守の評価を行った上で、解体に関する検討を行う予定です。

また、天守群の復元等について、耐震改修等の木造復元以外の整備手法との比較や、復元の蓋然性について十分な根拠があるかという視点で検証し、施工条件や復元範囲、基礎地盤対策を含む工法のほか、仮設計画や使用木材の樹種等についても検討します。さらに、天守群の復元等と史跡の風致・景観との整合性や防災上の安全性の確保などについても検討する予定です。（広島市市民局文化スポーツ部文化振興課広島城活性化担当）



検討会議の様子

●広島市公式ホームページ（広島城天守の復元等に関する検討会議）<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/46/337012.html>

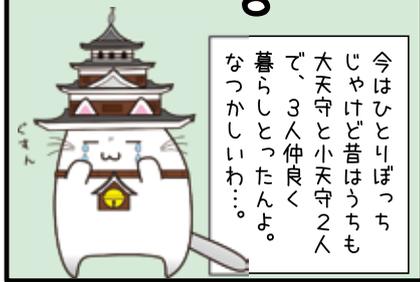
しろうニャ！ 広島城

～「みー」と「ひー」って誰??～

今回は、ちょっとおセンチなしろうニャさん。なつかしのトリオ時代をふり返ってくれました。



「安芸国広島城所絵図」(部分)
国立公文書館内閣文庫蔵



天守南側に存在する謎な広場
しろうニャのふれあいステージではない。

広島城内で一番高い建物は、今も昔も本丸上段の西北隅にそびえる5層5階の天守です。原爆ドームと共に広島のシンボルでもあります。ところが親しみあるこの天守、真の姿ではないんです！その痕跡は天守が建つ天守台にあります。天守台が東へ南へと伸び、その先には謎の四角い広場も。

実は当初の天守は、大天守両袖の渡櫓（廊下）から3層3階の小天守へとつながる、「複連結式」のお姿でした。しかし明治初期に東・南の小天守は全て、渡櫓も東は約半分、南は大天守寄りの一部を残して取り壊されたのです。渡櫓の切断面は、漆喰塗りの壁となり、南の壁には天守への入口が出来ました。その後、原爆投下により天守は倒壊、昭和33年（1958）には外観復元されましたが、東の渡櫓は復元されることなく、ポツンと1棟の天守となってしまう訳です。



天守からつながる東の渡櫓の一部（明治末期～大正初期）個人蔵
渡櫓へと上がる入口が見えている。

たまに、みー&ひーとの黄金時代を思い出すしろうニャさんですが、ファン待望のしろうニャ御城印&御城印帳が新入荷し、日々大忙し！ぜひ皆さん、広島城ミュージアムショップへ来てね 🐾 （山縣紀子）



編集・発行
公益財団法人広島市文化財団
広島城
〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

令和6年3月10日発行

📻 「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます

広島城利用案内
開館時間 9:00～18:00 (12月～2月は9:00～17:00)
入館の受付は閉館の30分前まで
入館料 大人370円(280円)
高校生相当・シニア 180円(100円)
中学生以下無料
()内は30名以上の団体料金
休館日 12月29日～31日(その他臨時休館あり)
ホームページ <https://www.rijo-castle.jp>